

中学生、米国で学習・交流

昨年10月1日から9日まで、未来を担う市の中学生21人がアメリカ合衆国へ行ってきました。
ワシントンD・Cでは、リンカーン記念堂や国会議事堂、国立航空宇宙博物館を訪れ、アメリカ建国の歴史と文化に触れました。姉妹都市オハイオ州マンスフィールド市では、ホームステイしながら、現地の学校を訪問し、生徒と交流しました。
今回は、研修生の感想の一部を抜粋して紹介します。



都路中学校 2年
渡辺 彩夏 さん

アメリカで感じたこと

- 一、失敗は経験につながる。研修中のいくつかのミスもよい経験と捉えることを学びました。
- 二、完璧な英語を話そうとする必要はない。

- 三、主語＋述語＋目的語で大体伝わる事が分かりました。英語は単語と単語が、つながって発話される。授業だけでは分からなかったことを知りました。
- 四、言葉が通じる事は楽しい。英語により世界中の人と分かり合えれば素晴らしいので、さらに学びたいと感じました。



研修生リーダー
船引中学校 3年
吉村 愛莉 さん

まるで別世界

アメリカの空は、平地が広がっているの低いところまで青く染まっているように感じました。ホストファミリーからは私への優しさと温かさだけでなく、ファミリー同士がとても仲が良く、強い家族愛までも感じさせてもらいました。家の庭もショッピングセンターもジュースのサイズも人々の心の大きさも全てが大きく感じられました。

視野の広がり

ホストファミリーの皆さんとゲームをしたり、家のプールに入ったりして仲良くなると徐々に研修が楽しくなってきました。アメリカの学校と日本の学校の違いにたくさん驚き、現地の教会、クロスカントリーやサッカーの試合、大きなスーパーマーケットなど、初めて見るものばかりでした。自分の視野を広げられた最高の思い出です。



研修生サブリーダー
船引中学校 3年
松本 紗夜 さん

失敗を恥じない私に

初めは間違った英語を話すことが恥ずかしくてホストファミリーにも話しかけることができませんでした。でも、現地の方々は見ず知らずの私に日本語を教えて欲しいと積極的に話しかけてきました。教えてあげた日本語を繰り返し練習している挑戦する姿、間違えても諦めない姿が格好良く見えて「私もそんな風になりました。」と思うようになりました。



大越中学校 2年
新田 杏 さん

これからの生活に

アメリカと日本の文化や生活の違いを肌で感じて、多くのことを学んできました。米国は明るくフレンドリーな人が多く、消極的な私は見習いたいと感じました。また、スポーツが盛んだということも分かりました。ホームステイ先にトランポリン、エアホッケー、卓球台などがあったのです。そして学生は自信と謙虚さを併せ持っているようでした。この経験を生かして自分の夢や目標に向かって進みたいと思っています。



常葉中学校 3年
吉田 愛里 さん

アメリカで学んだこと

アメリカの学校の生徒は、とても積極的に授業に参加していました。先生からの質問に対して間違いを怖がらずに挙手をし続けて話していました。また、ある農場でのピザ・パーティーでは大人の方々に声をかけてもらい、親近感を抱きました。積極的に話し、コミュニケーションを図ることが、とても大切だということを学びました。



船引南中学校 3年
渡辺 文人 さん

異文化の理解

アメリカは移民の国と聞いていましたが、肌や髪の色、話す言語、ファッションなど一人一人の違いを体感できました。「食」の面ではドリンクも料理も、そのサイズの大きさに目が点になりました。四つの小中高校を訪ねましたが、生徒達は友好的に接してくれましたし、学習では自分の課題に自主的に取り組む姿ばかりで刺激を受けました。僕は自主的、友好的で異文化を理解できる人を目指したいと思いました。

船引中学校 3年
佐藤 慶汰 さん